

NAGASAKI
UNIVERSITY
SCHOOL
of
MEDICINE
Vol.150
2020年(令和2年)

朋百

長崎医学同窓会



Pompe

総会延期のお知らせ

令和2年度長崎医学同窓会総会は
令和2年10月16日(金)に延期いたします。
詳しくは31ページをご覧ください。



第12回 良順教育賞を受賞して

医療教育開発センター
キャリア支援室長

まつしま かよこ
平成15年卒 松島 加代子

第12回目となる『良順教育賞』を受賞させていただきました。

大変素晴らしい大きな賞を頂き、長崎大学の皆様に心より感謝いたします。

～子供の頃の夢は～

25年前、私の将来の夢は、『学校の先生』か『お医者さん』でした。

激しく迷った末、学校の先生は諦めましたが、医学教育の現場に立たせていただくことで、いま、結局どちらの夢も叶いました。不思議なものです。与えられたからには自分のやるべきことが何らかあるはずだと思いますが、それは何なのでしょう。時折、振り返っては考えます。

～涵養された長崎大学愛～

20年前、長崎大学の学生でした。特段の取柄もない一学生でしたが、基礎医学、臨床実習で出会う先生方は、名前を憶えて接して下さり、どの教室にも先生方との思い出があります。豆まき大会をしたなあ、とか雪合戦したなあ、とか（もちろん講義や試験も覚えています…）。

17年前、第二内科に入局しました。河野茂現学長が当時科長でいらっしゃいましたが、最新の文献を用いて自ら毎日モーニングレクチャーをされ、衝撃を受けました。新患チャートや回診のときのご指摘が鋭く（厳しく）、患者さんの診療情報の把握を怠ることは許されませんでしたので、上級医の先生方と一緒に、必死にプレゼン準備した日々を思い出します。患者さんとの向き合い方はこの研修医時代に学びました。

シンポなどの学会発表の機会を、宿輪三郎先生が、数多く与えてくださいました。当時は、指導が濃すぎると内心思っておりましたが、頼りない学年に仕事を与えるということは、指導者としては大変なリスクと労力を伴うことだったと思います。

学生時代も研修医時代も、各教官が手すきの時間を見つけては、ミニレクチャーをして頂い

ていました。いわゆるOMPやOff-JTにあたるわけですが、私が意識的に取り入れないといけない教育の手法と時間を、当時から自然に実践される先生方だったのだと、今になって実感しています。

11年前、消化器内科が発足したころ、大学院生活を続けていましたが、磯本一先生や竹島史直先生、中尾一彦教授など、指導医の先生方が、まさに『自由闊達』『challenge』のポリシー通り、自由に研究をトライさせてくださいました。また、第二内科、熱研、薬理学、原研…と、どの教室でもお願いすれば先輩大学院生が、快く実験手技を教えてくださいました。たびたびその良心につけこんできました。

各時代、諸先生方の後進に対する愛情に触れ、ゆっくりと伝授されてきました。

～突然、医学教育と向き合う～

2011年、医療教育開発センターの指導医として配属され、長大生、研修医の教育にどっぷり漬かることになりました。どうすれば、より魅力ある研修制度が造れるか、試行錯誤の日々を過ごしてきました。そのなかで、取り組みを2つ、ご紹介します。1つは『研修医メンター制度』です。全国に先駆けて、2011年に取り入れました。研修医に対し、メンターをしてくれる指導医を各科から募れば毎年50名以上の立候補が上がり、1年間、密に見守ってくださいます。これほどメンター制度が根付いて機能している病院は全国どこを探しても見当たりません。2つ目は、『新・鳴滝塾』。県内研修関連16病院で構成されているのですが、研修イベントなど、お願いすれば快く各病院の指導医が駆けつけてくださいます。

長崎大学・長崎県の研修が盛り上がっているのは、指導医の皆様のおール長崎の一体感と指導力のおかげなのです。

～教育者としての考え方～

私自身は、一教育者として、『受けてきた教

育を、後輩たちに渡せているか』ときどき自問しますが、正直なところ、まあ恐ろしくなるほど全く及びません。

浜田先生の勧めでトロント大学へ研修にいった時のことです。“Teaching is Learning”これは日本人の素晴らしい考え方なのだ、と教わりました。同様の考え方で、『教育』とは『共育』と書き換える方もいらっしゃいます。未成熟なままでよいのかと自信のなかった自分には、腑に落ちた言葉で、この考え方を実践していこうと思っています。

『良順教育賞』という大変名誉ある賞を頂き、大変恐縮しておりますが、これから成長するのだぞ、との先輩方からの激励と受け取っております。賞に値する働きを皆様に認めて頂けるように頑張りたいと思います。

～2020年。challengeのとき！～

今年、臨床研修制度の大改訂、専門医制度とシーリング、なによりCOVID-19対策下での研

修対応と、混沌とした春を迎えました。また、本年度から医学教育学会の理事を拝命することになりました。重圧ではありますが、浜田教授や長谷敦子教授ほか、長崎の医学教育部門を担う諸先輩方の思いを感じ、今後、形で返したいと思っています。

苦難のいまこそ、教育の分野でもchallengeをして、必ず、長崎に貢献できるような仕事をします。

- ①長崎の素晴らしい教育者、指導力を、全国へ向けて広報発信すること、
 - ②そのような教育者が教育しやすい環境を整備すること、
 - ③自身が『共育』を実践すること、
- が私の使命と考えます。

お世話になってきた皆様に、受賞報告と御礼を申し上げるとともに、決意表明として記したいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

